

「ゼロカーボン北海道」の実現に 向けた道民の意識調査(第1回)結果

2022年6月
環境生活部 ゼロカーボン推進局
ゼロカーボン戦略課

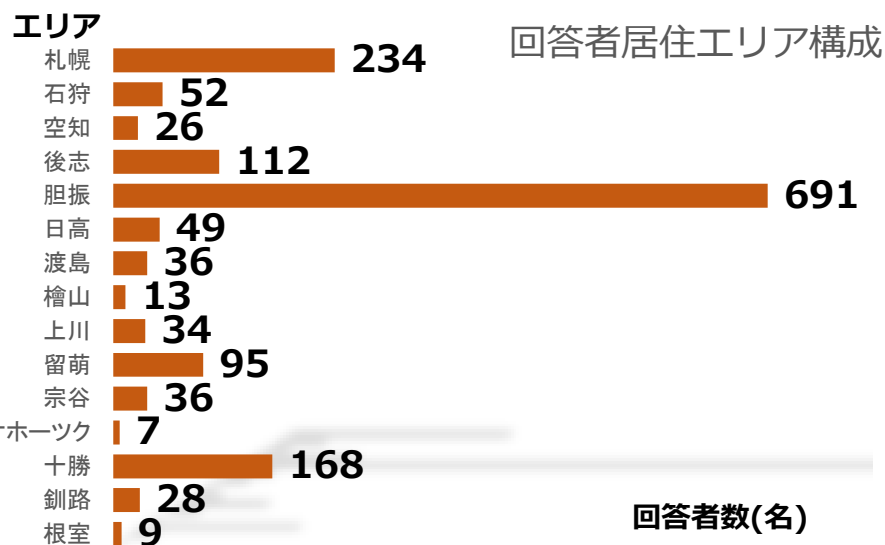
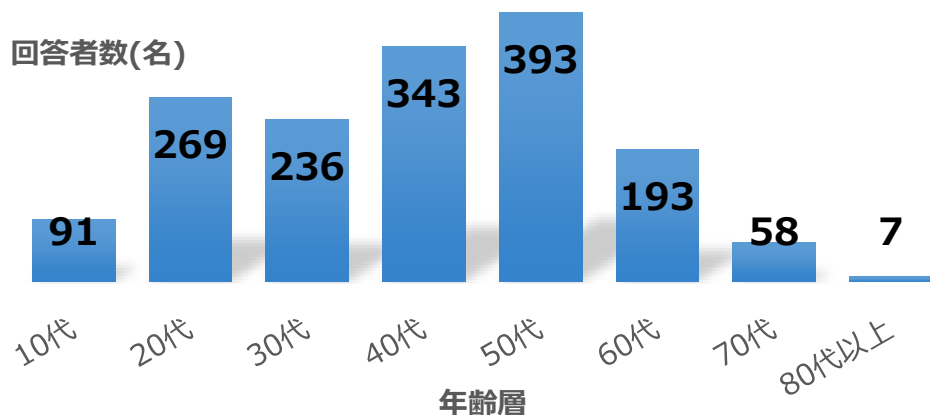
1 調査目的

「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、道民の方々のゼロカーボンに対する認知度や取組を把握するため意識調査を実施した。

2 調査概要

- ✓ 調査方法：インターネットによる簡易調査および街頭調査
- ✓ 調査期間：令和4年(2022年)4月26日(火)～5月26日(木)
- ✓ 調査対象者：道内在住の10代以上の男女 計1,590名
- ✓ 回答者情報：

回答者年齢構成



※以降、パーセンテージを示すデータは小数点第2位を四捨五入し表記する

3 調査結果のポイント

○ 「ゼロカーボン、脱炭素、カーボンニュートラル」 という言葉を知っているとの回答は72.5%

「ゼロカーボン、脱炭素、カーボンニュートラル」という言葉の認知度は「知っている」が72.5%に達した。世代別でも、最少の10～20代でも66.1%で、比較的高い水準で浸透していることがうかがえる。

○ 北海道の削減目標値は33.4%が「知っている」

北海道の削減目標値は、全体で「知っている」が33.4%「聞いたことはある」が31.4%、「知らない」が34.8%で三分した。

○ 取組を増やすには「何をしたらよいかの情報」と、 「取り組むことによるメリット」が必要

暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動は全体で53.1%が何かしらの行動を実施していると回答。ゼロカーボンという言葉の認知度に比べ、取り組んでいる方の割合が低い傾向がうかがえる。

取り組めていない理由には「何をしたらよいかかわからない」が59.9%「手間や費用がかかる(増える)から」が32.1%で、ゼロカーボンに繋がる行動とそのメリットに関する情報発信が必要と考えられる。

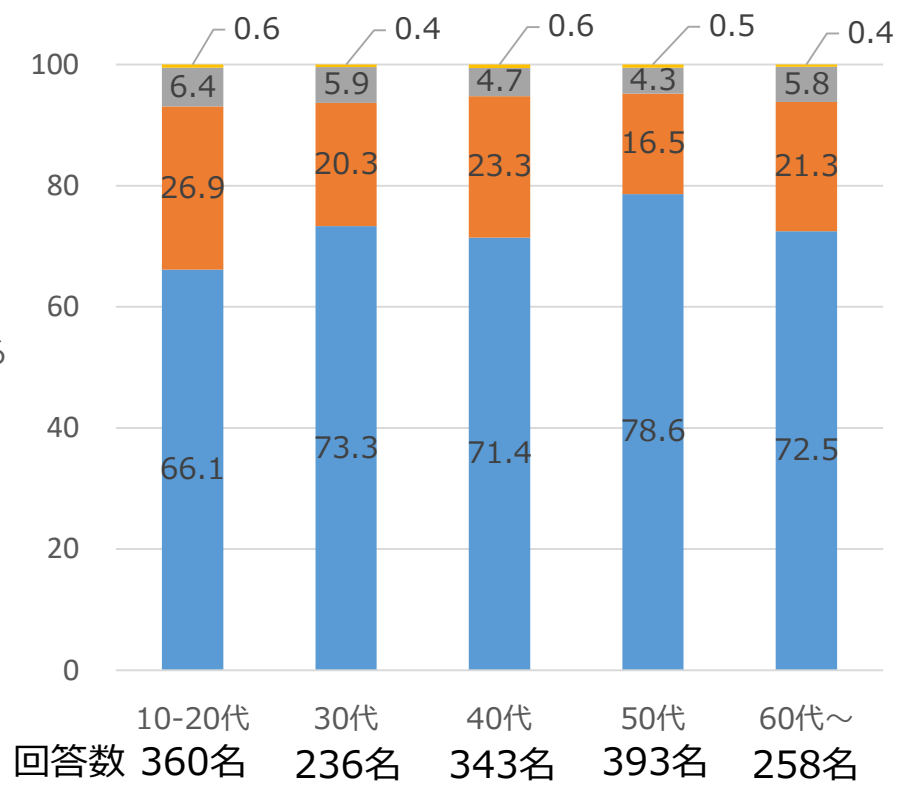
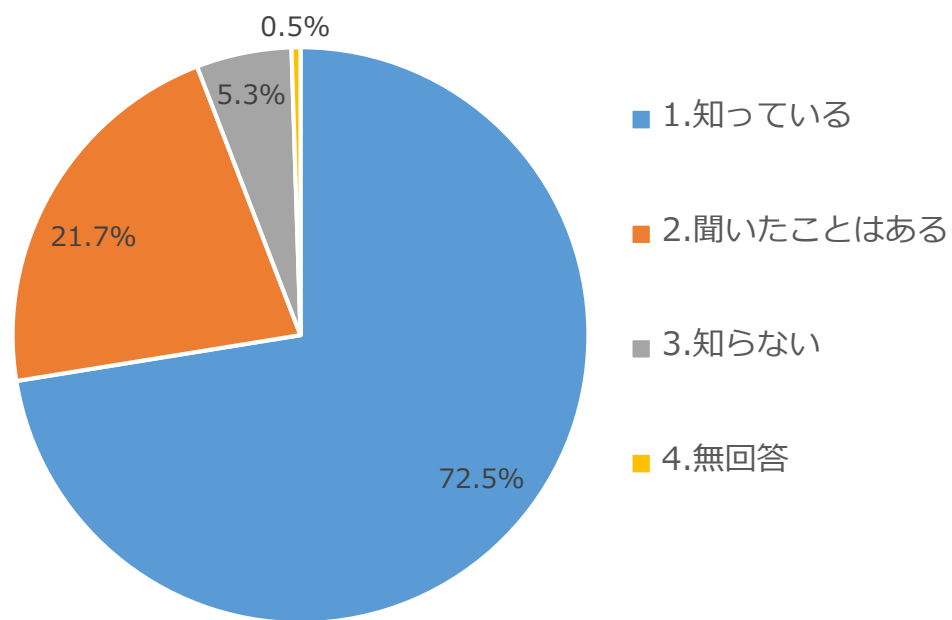
問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素(以下、「ゼロカーボン」と言う)という言葉を知っていますか。

・ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の認知度

「知っている」72.5%と「聞いたことはある」21.7%。

「知っている」という回答の最大が50代の78.6%で、最少は10~20代の66.1%となった。どの年齢においても、比較的高い水準で浸透していることがうかがえる。

(回答数：1,590名)



問2 ゼロカーボンが何を目標※としているか知っていますか。

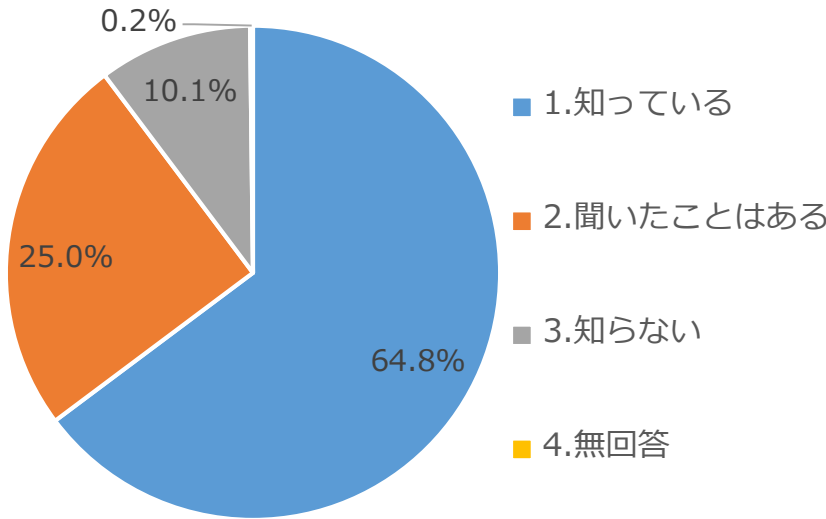
※二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を森林などによる吸収量と均衡させて、実質ゼロとすることです。地球規模の課題である気候変動問題に解決に向けて、世界共通の長期目標とされています。

・ゼロカーボンの目標の認知度

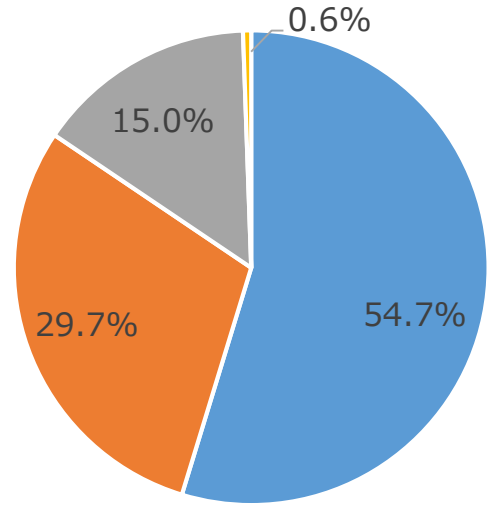
全体で、「知っている」64.8%、「聞いたことはある」25.0%で、**高い水準で浸透**していることがうかがえる。

一方**10～20代では**、「知っている」54.7%、「聞いたことはある」29.7%で、認知度が**やや低い傾向**がある。

全体(回答数：1,590名)



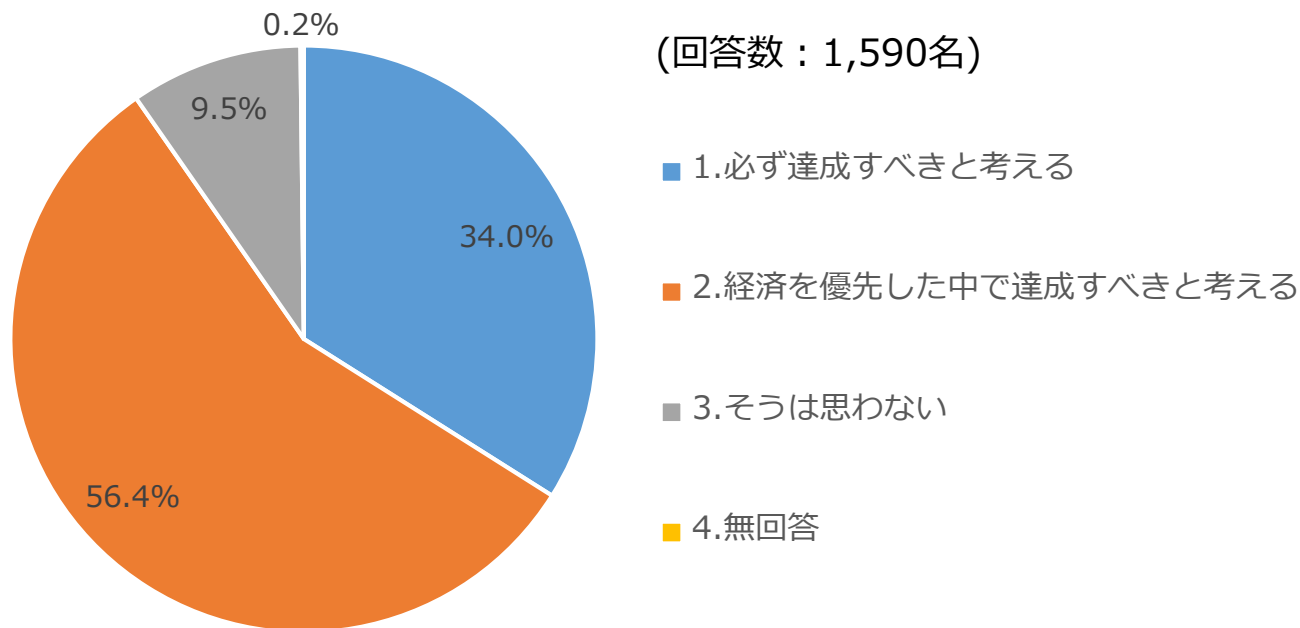
10～20代(回答数：360名)



問3 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。

- ・ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えるか

「経済優先で達成すべき」が56.4%を占めて多数派。



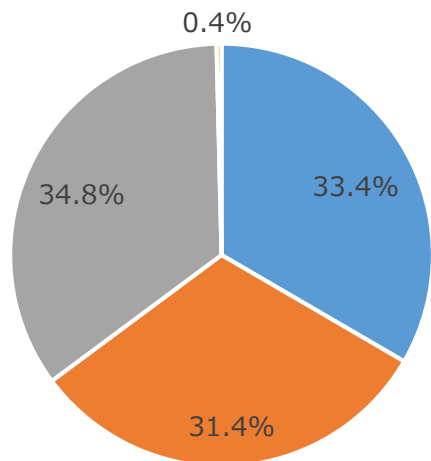
問4 北海道は2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減(2013年度対比)を目標としたことを知っていますか。

・北海道の削減目標の認知度

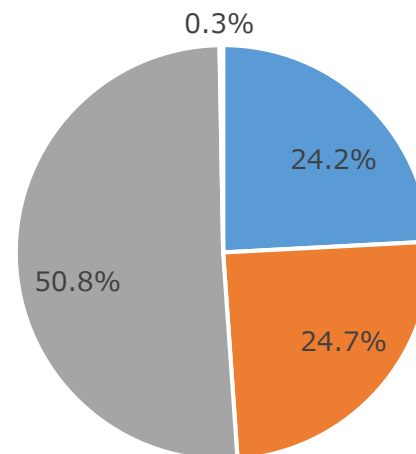
全体における認知度は「知っている」33.4%、「聞いたことはある」31.4%、「知らない」34.8%で、**三分した**。

ただし、10～20代では50.8%が「知らない」と回答しており、**若年層への浸透は低い傾向**が読み取れる。

全体(回答数：1,590名)



10～20代(回答数：360名)



- 1. 知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. 知らない
- 4. 無回答

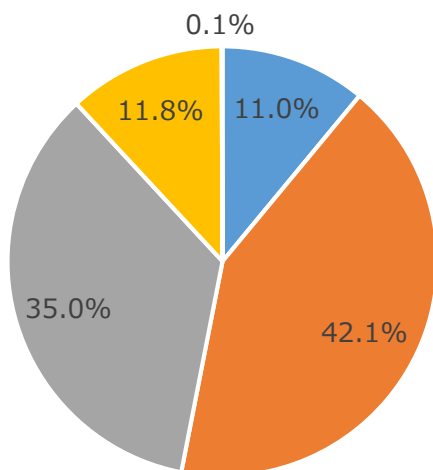
問5 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。

・ゼロカーボンを意識した行動

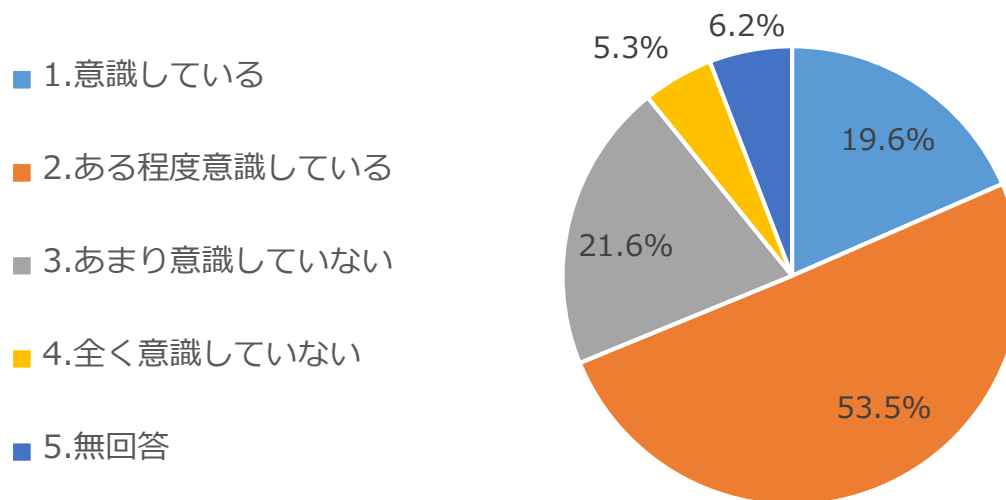
全体では「意識している」+「ある程度意識している」と「あまり意識していない」+「全く意識していない」の割合はおおよそ半々。

特に60代～では「意識している」+「ある程度意識している」が73.1%を占め、行動も伴った方が多いことがうかがえる。

全体(回答数：1,590名)



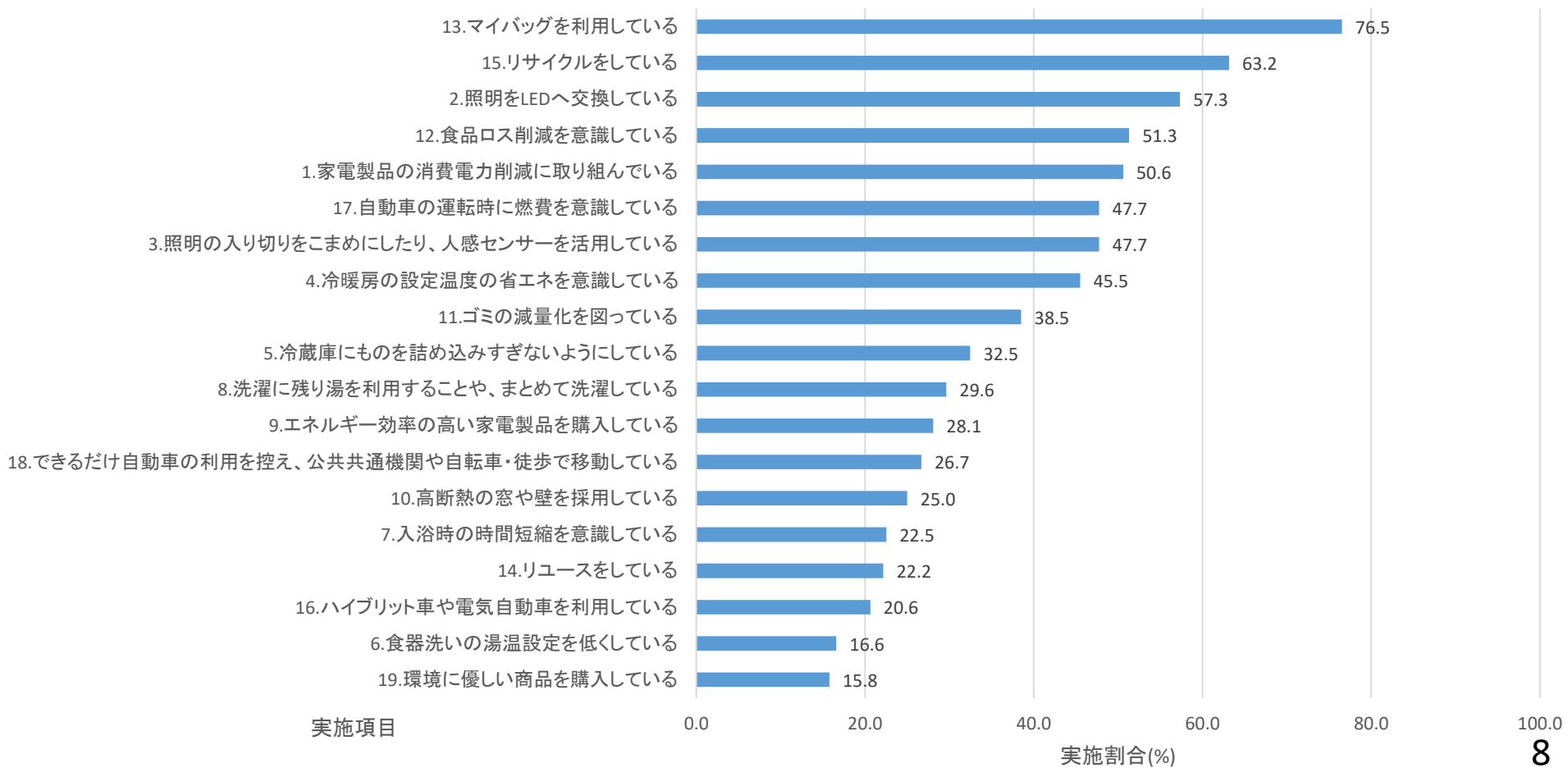
60代～(回答数：245名)



問6 (問5で「意識している」「ある程度意識している」を選 択した方) 具体的にどのような行動をしていますか。 (複数回答可)

(回答者数：844名)

- 上位3項目
- ・マイバッグを利用している(76.5%)
 - ・リサイクル(缶・ペットボトルの分別排出、使用済天ぷら油の回収施設への持参など)をしている(63.2%)
 - ・照明をLEDへ交換している(57.3%)



問6 (問5で「意識している」「ある程度意識している」を選択した方) 具体的にどのような行動をしていますか。
(複数回答可)

その他のご回答(23名)

再エネ電力の導入や購入をしている(4名)

- ・再エネ電気を購入している
 - ・太陽光パネルを自宅に設置している
- ほか

薪(ペレット)ストーブを使用している(3名)

- ・暖房には薪ストーブを使用している
- ほか

教育や啓蒙活動をしている(3名)

- ・低炭素なライフスタイルを、ほかの人に意識して伝えるようにしている。
 - ・教育に取り入れている
- ほか

否定的なご意見(3名)

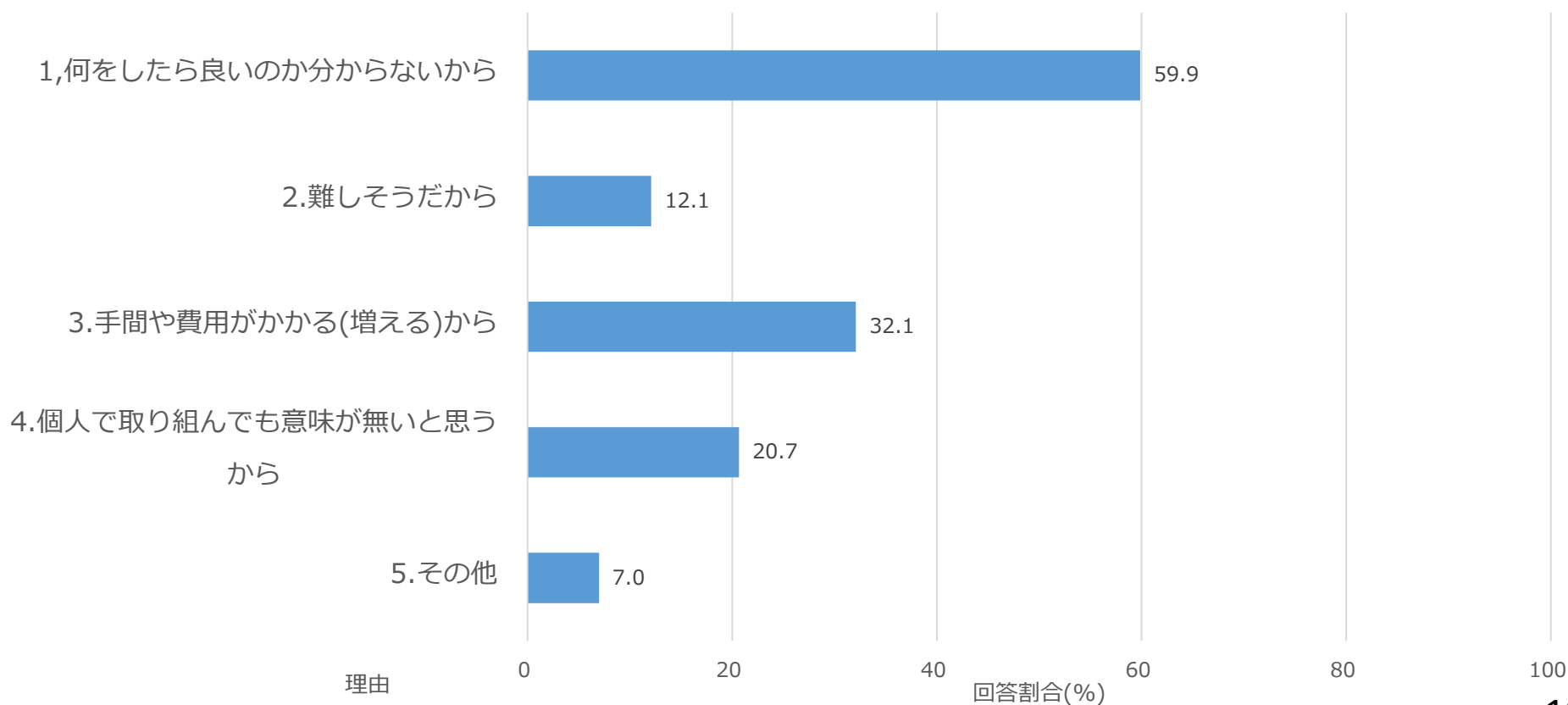
- ・私の回答は、家計費用の削減であり、ゼロカーボンではない。われわれの食糧は、炭水化物を主体としており、光合成の原料である二酸化炭素の削減には反対する。また、今後の太陽活動の極少化の懸念に対し、二酸化炭素の減少は、死活問題である。さらに、ゼロカーボンに関する利権が問題である。
- ほか

問7 (問5で「あまり意識していない」「全く意識していない」を選
 択した方) ゼロカーボンを意識した行動に取り組めていない理由
 は何ですか。(複数回答可)

(回答者数：745名)

上位3項目

- ・ 何をしたら良いのかわからないから(59.9%)
- ・ 手間や費用がかかる(増える)から(32.1%)
- ・ 個人で取り組んでも意味が無いと思うから(20.7%)



問7 (問5で「あまり意識していない」「全く意識していない」を選択した方) ゼロカーボンを意識した行動に取り組めていない理由は何ですか。(複数回答可)

その他のご回答(52名)

ゼロカーボンに同意できないから(29名)

- ・ゼロカーボンが果たして本当に正しいのかが分からないので、取組む意義が見つけられない。
- ・そもそも地球の気温は太陽に左右されている部分が大きいという立場をとっているし、20世紀が寒すぎただけと考えていることと、人間程度がどうこうしたところでどうにかなるものでもないと考えているから。 ほか

生活の質、経済性を優先しているから(4名)

- ・電気使用料削減するよりも自分の生活環境が優先してしまう。
- ・ウクライナ問題で世界の流れが変わったから。ゼロカーボンしていくためには収益をしっかりと確保していかなければ続かないが 資源価格高騰、インフレ金利上昇圧力、FRBによる大量の資本回収が予定される中でゼロカーボン企業から資本が逃げ出しボロボロになり 逆に化石燃料関連に長期資本が流入していく状況では ゼロカーボン一択ではリスクが大きすぎるので バランスを取りながら両方でリターンを獲得する方向に変更しました。 ほか

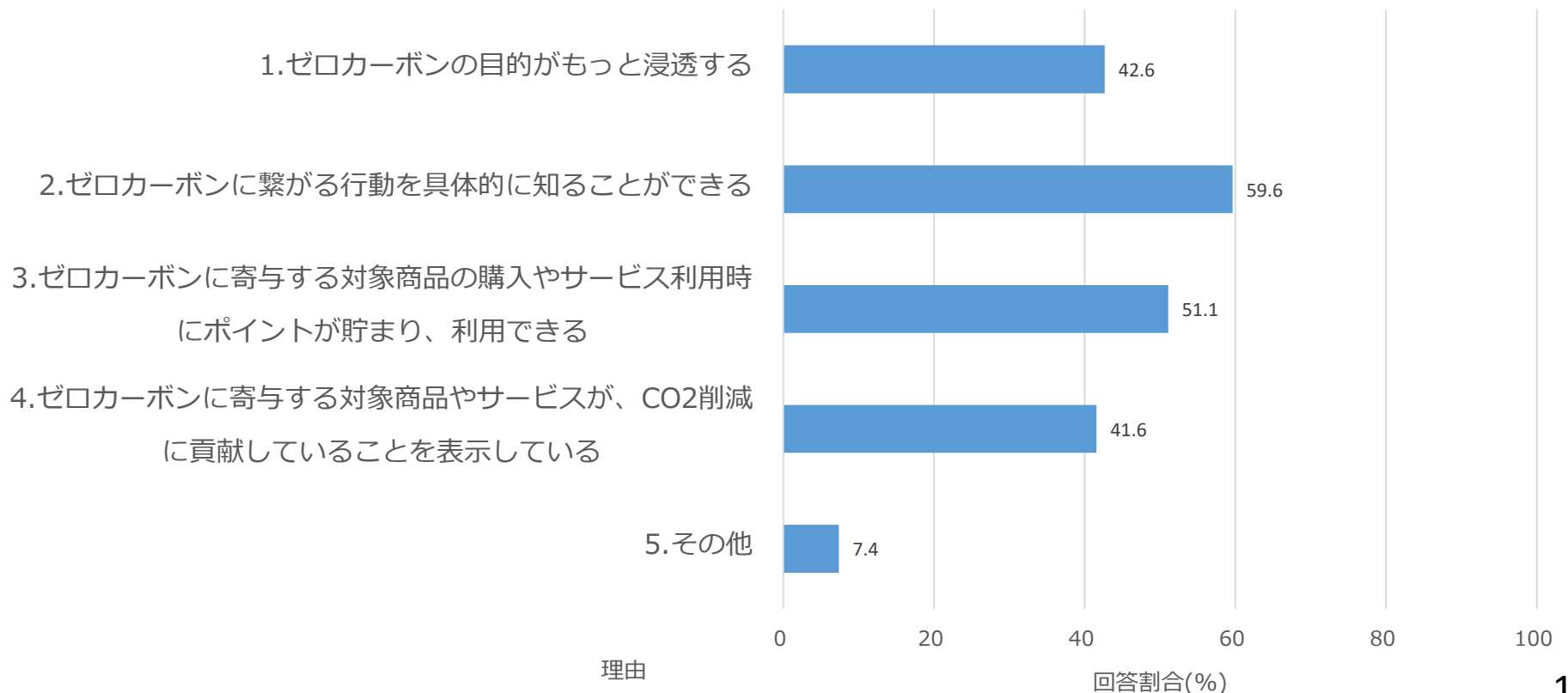
ゼロカーボンに無意識でも実施できるから(4名)

- ・お金やエネルギーを節約することを意識すると自然とゼロカーボンに近づくから。ゼロカーボンはあまり意識していない。 ほか

問8 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。(複数回答可)

上位3項目

- ・ゼロカーボンに繋がる行動を具体的に知ることができる(59.6%)
- ・ゼロカーボンに寄与する対象商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる(51.1%)
- ・ゼロカーボンの目的がもっと浸透する(42.6%)



問8 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。(複数回答可)

その他のご回答(108名)

課税と優遇措置(30名)

- ・ エネルギー単価を吊り上げて、ものの価格を吊り上げる。そうすると、使用を控えるので、CO2の排出は減る。そこまでしないと人の意識は変わらない。
- ・ ゼロカーボンに寄与しない商品等に関税 (道税) をかけ、それを財源にさらなる普及を目指す。 ほか

一般にわかりやすいPR活動(22名)

- ・ ゼロカーボン化を進めなかった場合に、未来がどうなるかを更に知らしめ、一家庭がどのような手法でどの程度カーボン排出を減少させると良い未来に繋がる、という指標を示し浸透させる。
- ・ ゼロカーボンは企業が実施する事であって一般市民には関係がないといった認識で広まっています。SDGsのように全世界で取り組まれているといった世論・風潮が変わり、一般市民が実施すべきことが何かをメディアを通してアピールしゼロカーボンを実施しない人の方がおかしいといった世論に変えれば加速的に浸透すると思います。 ほか

自ずとゼロカーボンに繋がる社会やビジネスモデルの構築(12名)

- ・ 意識したり特別な行動をせずともおのずとゼロカーボンに繋がる社会にすることが必須になると考えます。
- ・ 三方よしで 事業者、個人、社会がしっかり利益を確保し続けなければ持続可能は無理なのでしっかりとしたビジネスモデルの構築 ほか

問8 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。(複数回答可)

その他のご回答(108名)

意識改革/習慣となる教育(4名)

- ・その行動が面白いと感じられる仕掛けを作る。最近言われる「仕掛学」。あとは日本人の特性?の利用。NHKの世論喚起とお上の決定の浸透により、ある時点で相転移?が起きて「みんな」と同じ行動を取る圧力が働く。スパイクタイヤの禁止から資源ゴミの分別までこの仕組みで実現させたと感じています。 (ほか)

原発の再稼働(4名)

- ・原発の再稼働を早くしてください。稼働してなくてもリスクは残っているので、どうせなら有効活用してください。 (ほか)

ゼロカーボンに同意できない(14名)

- ・持続可能社会、自然との共存、エネルギーの無駄遣いをしない、ゴミを減らす等には推奨すべきことと共感できるが、CO2が本当に地球の温暖化に結びついていのかは疑問に思っている。 (ほか)

わからない(7名)

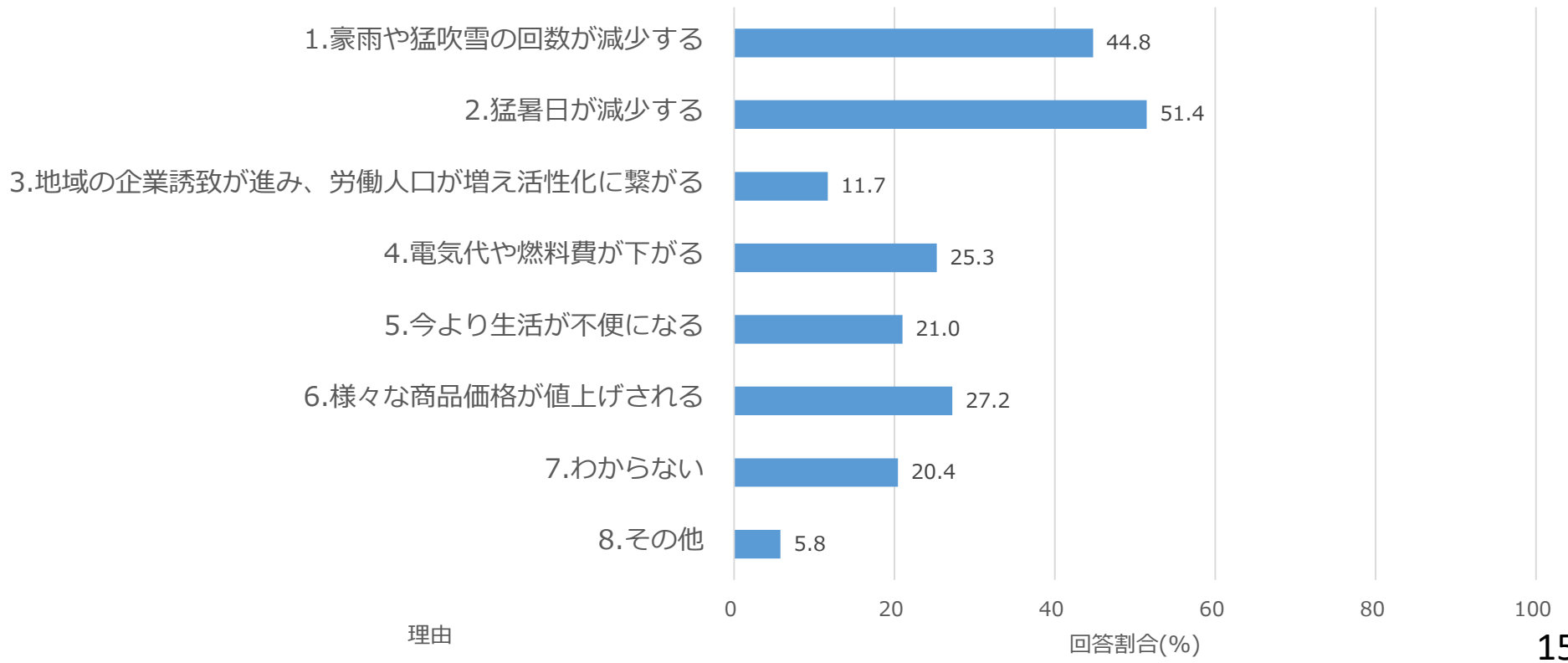
問9 ゼロカーボンが達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。(複数回答可)



気候変動に対する効果を約半数の方が予想するが、それ以外の効果(影響)については、理解が得られていなかったり、認知度が低い。

上位3項目

- ・ 猛暑日が減少する(51.4%)
- ・ 豪雨や猛吹雪の回数が減少する(44.8%)
- ・ 様々な商品価格が値上げされる(27%)



問9 ゼロカーボンが達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。(複数回答可)

その他のご回答(87名)

どうなるかわからない(4名)

- ・ ゼロカーボンを達成するうえでの問題点の有無が示されていない(周知されていない)気がする。電気自動車の劣化バッテリーがどう処理されるのか(その過程でゼロカーボンに反する工程はないのか)、太陽光パネルの再生は可能なのか(その過程でゼロカーボンに反する工程はないのか)、また、それらの製造過程でどの程度エネルギーを消費するのか、等。自動車のエンジンにしても、発電所にしても、昔と比べてかなり優秀で、二酸化炭素放出量も少ないと聞く。良いことばかりをピックアップするのではなく、システムトータルとして現状よりどうなるのかということ共有化することが理解を深め、協力することにつながると考える。 (ほか)

人類の平和に繋がる(3名)

- ・ 他者を思いやる精神を養え、平和な世の中に貢献できる
- ・ 気候の安定化を実感することにより、物を大事にする気持ち、土地や街など、人々を愛する気持ちを育み、それによって豊かな心が育てられ、より幸せに安心して暮らせる故郷づくりから少子高齢化なども期待できる。 (ほか)

新しい気付きが得られる(2名)

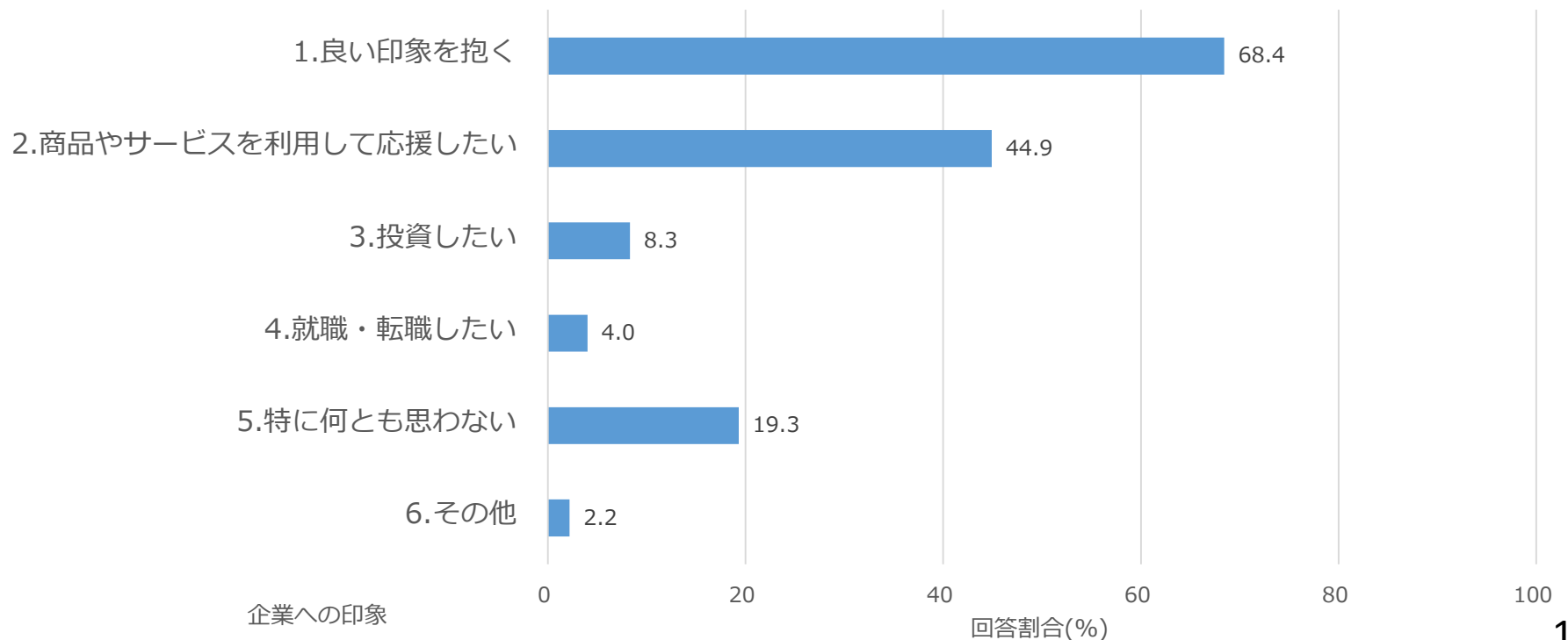
- ・ 温暖化が引き続き進む場合は、原因が温室効果ガス以外にあるという気づきを得られる。技術革新で温室効果ガス吸収源よりも効果的で付加価値の高い吸収等が可能になり、再生可能エネルギーの賦存量による優位性は関係なくなる。 (ほか)

問10 ゼロカーボンに取り組む企業に対してどのような印象を持ちますか。(複数回答可)



ゼロカーボンに取り組む企業に対して「良い印象を抱く」が約7割だが、その企業へ応援につながる行動(商品の購入など)の意識は、現時点ではそれほど高くないと読み取れる。

- 上位3項目
- ・ 良い印象を抱く(68.4%)
 - ・ 商品やサービスを利用して応援したい(44.9%)
 - ・ 特に何とも思わない(19.3%)



問10 ゼロカーボンに取り組む企業に対してどのような印象を持ちますか。(複数回答可)



その他のご回答(35名)

悪い印象を抱く(12名)

- ・ カーボンオフセットなど使用している企業は結局排出量は変わっていないの
あまり良い印象はない。 (ほか)

社員が大変そうで心配に思う(4名)

- ・ 職員の苦労の上で成り立っているんじゃないか心配です。
- ・ あまり背伸びをせず。徐々に進めたらよろしいのでは。従業員の負担にならないようにすべき。 (ほか)

当たり前なことだと思ふ(3名)

- ・ 取り組まない企業の印象が悪い。
- ・ 今後当然のこととなると思う (ほか)

企業の行動の前に行政が行動を取って欲しい(2名)

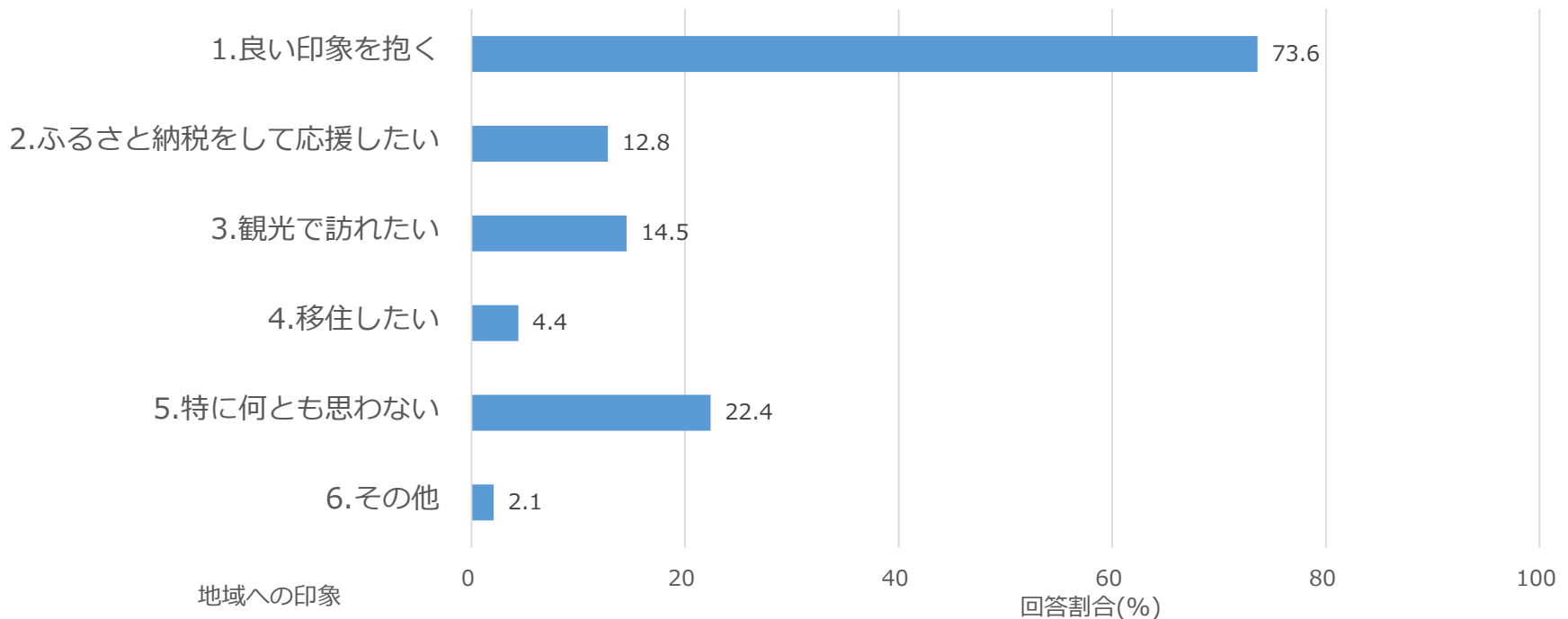
- ・ 印象がどうかではなく必ず実現するために北海道はもっともっと責任感をもって行動しなければいけません。 (ほか)

問 1 1 ゼロカーボンに取り組む地域に対してどのような印象を持ちますか。(複数回答可)



ゼロカーボンに取り組む地域に対して「良い印象を抱く」が約7割だが、その地域への貢献につながる行動(商品の購入など)の意識は、現時点ではそれほど高くないと読み取れる。

- 上位3項目
- ・ 良い印象を抱く(73.6%)
 - ・ 特に何とも思わない(22.4%)
 - ・ 観光で訪れたい(14.5%)



問 1 1 ゼロカーボンに取り組む地域に対してどのような印象を持ちますか。(複数回答可)

その他のご回答(33名)

悪い印象を抱く(12名)

- ・住みにくく感じる。(経済性・利便性が犠牲になる) ほか

もっと正しい情報を発信してもらいたい(5名)

- ・地球規模の視点にたったの行動か地域発展やインセンティブ目的の行動かが良く見えない自治体が多いと考えます。地域特性を最大限に活用した活動を目指し、目的の周知が重要ではないでしょうか。 ほか

活発な地域だと思う(4名)

- ・地方であっても、時流に合わせた動きをしているという印象に繋がり、都会一田舎との情報や生活水準・サービスの格差を埋めかつ特徴を出そうとしている、いわゆる「活発な」エリアに住む一員としての一体感を感じることに繋がると考えます。 ほか

他に取り組むべき課題があるのではないかと思う(3名)

- ・考え方がゼロカーボンを優先し、日本の産業を犠牲にする考えであれば、本末転倒、愚の骨頂であると思う。 ほか

問 1 1 ゼロカーボンに取り組む地域に対してどのような印象を持ちますか。(複数回答可)



その他のご回答(33名)

プロジェクト等に参加して支援したい(2名)

- ・ふるさと納税の仕組みが適切かどうかは別として、直接、またはその地域を支援する企業等に対して、何らかの支援、関連プロジェクトがあれば参加したい
- ・取り組みに参画し、応援したい。

ほか

- ・取組の意思は好ましいと思うが、[納税や移住を考える材料にはならない](#)。
- ・持続可能社会、自然との共存、エネルギーの無駄遣いをしない、ゴミを減らす等には推奨すべきことと共感でき良い印象を抱くが、CO2が本当に地球の温暖化に結びついているのかは疑問に思っている。